

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】 平成 29 年度

事業所番号	2795000260		
法人名	社会福祉法人 正福会		
事業所名	グループホームくつろぎ・友井荘		
所在地	大阪府東大阪市友井四丁目8番5号		
自己評価作成日	平成 29年 8月 26日	評価結果市町村受理日	平成 29年 10月 23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaisokensaku.mhlw.go.jp/27/index.php?action=kouhvu_detail_2016_022_kani=true&JigyosyoCd=2795000260-00&PrefCd=27&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人大阪府社会福祉協議会		
所在地	大阪市中央区中寺1丁目1-54 大阪社会福祉指導センター内		
訪問調査日	平成 29年 9月 14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご本人様のできる事ややりたいことを尊重し、その方らしい生活を送っていただけるような支援に努めています。
施設内での生活にも季節感を感じていただけるようなレクリエーションや作品作り、外出機会の確保(散歩の実施)などを行っています。また行事でのご様子や施設でのご様子などもご家族様に機会があるごとに説明させていただき、関係構築に努めています。
ご利用者様の身体状況の変化などには十分注意し、各職員間で情報共有、必要に応じて主治医への確認などを行い、安心、安楽に生活していただけるように取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは、介護職の育成、介護事業の発展に30数年間尽力してきた「株式会社エルフ」を母体に設立された社会福祉法人が運営しています。地域密着型特養と併設し、レクリエーションをはじめとした利用者間の交流や地域交流、防災対策等を連携して進めています。法人本部の計らいで特養厨房から旬の野菜を使った美味しい食事が提供され、清掃職員を配置して、職員が利用者支援に力を注げるようにしています。職員は利用者が楽しめるように行事計画を整え、外出支援にも取り組んでいます。おやつ作りやお好み焼き等、毎月利用者の希望に沿って献立を作り、調理を楽しむ機会を設けています。利用者は得意なことで力を発揮し、みんなで作って味わう喜びを共有しています。提携医療機関との連携で看護師への24時間オンコールを実現し、いつでも必要な医療が受けられるよう医療連携体制を整備して看取り支援にも取り組んでいます。開設から5年、運営は安定し、地域や家族との連携も良く、職員の定着率が高いことから、今後もさらにサービス向上が期待できるホームです。

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

書かれた自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念は定例会議での説明や研修の開催案内などに記載し、管理者・職員が共有、実践するように努めている。またグループホーム独自の理念も掲げ、実践に努めている。 ご家族様にも事業所理念を知っていたできるように玄関に掲示している。	グループホーム独自の理念として「ご入居様一人ひとりの個別性を尊重し、快適、かつ安心、安全な暮らしを提供します」「わが家の様な『やすらぎ』と『くつろぎ』のある生活を提供します」を掲げ、利用者が地域の一員として暮らせるように支援しています。理念は玄関等に掲げ、利用者家族等とも共有しながら、日々実践に努めています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の公園へのお花見や地域の夏祭りへの参加、近くのスーパーへの買い物、天候の良いときには近隣の散歩などを通じて、地域との交流を図るようにしている。	地域自治会に加入し、地域行事に参加すると共に、事業所独自の催しにも地域から出向いてもらえるように取り組んでいます。地域ボランティアの協力を得たオカリナやマンドリン演奏会等は、楽しみながら交流もできる場になっています。すぐそばにある地域の神社への参拝、公園での散歩、スーパーでの買物等では地域の人々と顔なじみになり、挨拶を交わし歓談するなどの交流もめばえています。	ホームでは地域ネットワークをさらに広げ、地域との相互関係を築きながら、地域資源の活用を進め、利用者支援に活かす予定にしています。今後、取り組みの成果が期待されます。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に向けて活かしている	施設開設後 5 年が経過し、6 年目となっておりますが、認知症の方への理解や支援の方法などについての情報発信は行えておらず活かしていない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2 ヶ月に1回、運営推進会議は開催している。その際には提供サービスの状況や行事の内容などについて報告している。行事内容の報告の際には写真などでわかりやすい報告ができるように工夫している。 報告内容を含め、運営についてのご意見があればサービス向上に活かすことができるように検討している。	運営推進会議は「運営推進会議設置規程」に沿って2カ月に1回定期開催しています。構成メンバーは利用者、利用者家族、地元自治会代表、地域包括支援センター職員、他のグループホーム管理者、当該ホーム管理者・計画作成担当者です。最近の会議ではホーム職員が利用者の生活状況や健康管理、行事等の報告を行い、意見交換をしています。出席者からは「いろいろな行事に取り組んでおり、素晴らしい。職員の勉強会を定期的で開催しているのは良いことだ。留学生の受け入れでは日本語の理解度はどうか。家族間の交流の場や勉強する機会があれば良いのだが・・・」等の意見が出されています。出された意見はホーム内で共有し運営に活かしています。大きな課題等については実現に向けて検討しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる</p>	<p>介護保険上の解釈や疑義が生じた場合には、東大阪福祉部施設課への問合せを行うなど担当部署との連絡を密にし、相談や指導を受けるなど協力関係を築くことができるよう取り組んでいる。また変更届や報告書などの提出の際も時間が許す限り持参し、担当課職員と顔の見える関係性の構築に努めている。</p>	<p>管理者は何かあれば市役所担当課に出向き、報告、相談、情報交換等を行っています。また、運営についての疑問等が生じた場合には電話での相談を行い、迅速に対応できるようにしています。市の主催する研修会等の取り組みには職員も参加して協力関係を築いています。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>身体拘束廃止に関する指針を作成し、身体拘束となるような具体的な行為を理解し、身体拘束をしないケアに取り組んでいます。玄関の施錠も職員配置や時間などを決めて、解錠するように取り組んでいる。</p>	<p>「身体拘束廃止に関する指針」を作成し、重要事項説明書には「身体的拘束等の禁止」を明記しています。管理者は職員研修に力を入れ、身体拘束をしないケアを実践しています。玄関の解錠については職員体制を整え、時間を決めて鍵をかけないケアに取り組んでいます。</p>	<p>玄関の解錠については、今後、さらに職員間で話し合い、家族の協力も得るなどして、毎日の解錠時間を固定するよう取り組む予定にしています。今後、取り組みの成果が期待されます。</p>
7		<p>○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>高齢者虐待の防止、高齢者の権利擁護に対する支援等に関する法律などの理解を深めるために研修を開始し、虐待になる行為について具体的に学び、防止に努めています。平成29年度は6月21日に研修を実施した。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は日常生活自立支援事業や成年後見制度について理解し、入居者様に具体的に必要が生じた際には、ご家族様や関係者と話し合いができるよう取り組むようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結の前には重要事項説明書の内容について十分説明する時間を設けており、その後契約書内容の説明を行い、契約締結をしていただくようにしている。 法令の変更による運営規定やその他規程変更の必要がある場合には、ご家族様や入居者様に説明を行い、不安や疑問が生じないように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様やご家族様が意見や要望を申し出やすいような、職員との関係構築を目指し実践している。またご意見箱も設置し定期的に確認している。ご意見をいただいた場合は、定例会議で報告し、運営に反映できるように取り組んでいる。	利用者や家族の声、意見を大切にしたいホーム運営をしています。家族とは面談、電話、メール等を通じてコミュニケーションを深めています。毎月、利用者の様子を手紙にして、写真を付けて家族に送付しています。玄関には意見箱を設置し意見を出しやすくしています。運営推進会議で出された「家族間の交流の場や勉強する機会が欲しい」等の希望については、具体化できるよう職員間で検討しています。	ホームでは家族の要望を受けて、家族間の交流の場をより効果的な内容で提供できるよう検討しています。今後、取り組みの成果が期待されます。
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の見解や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の定例会議の場で、管理者、ケアマネ、介護職員が一同に介し意見交換を行っている。その会議内で提案された事項について検討し、運営に反映するように取り組んでいる。	管理者は日常的に職員の声や意見を聴取しホーム運営に反映しています。月1回の定例会議の場では、職員が意見交換を行い、業務改善等について提案をしています。管理者は積極的な提案や会議でまとめた課題等について、ホーム運営に活かせるようにしています。大きな課題については管理者が上層部とも相談しながら実現に向けて取り組んでいます。職員の意見が反映されていること、働く環境が整えられていることは、「職員の定着率が高い」結果につながっています。	ホームでは利用者の重度化に対応できるよう職員の学習環境を整備し、利用者のADL(日常生活動作)の状況や認知症の状態に合わせて、より効果的な支援ができるよう、さらに職員の育成を進める予定にしています。今後、取り組みの成果が期待されます。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		<p>○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>職員の努力や実績、勤務態度や状況の把握などに努め、各職員が向上心ややりがいを持って働くことができるように環境整備や条件の整備に努めている。</p>		
13		<p>○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>職員の力量や実力を把握し、法人内研修や法人外研修など経験に応じた研修機会の提供に努めている。資格未取得の職員に対しては初任者研修の受講料補助も行っている。またスキルアップのための介護福祉士や介護支援専門員などの資格取得にも取り組むように職員に働きかけを実施している。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>認知症グループホーム協会の定例会へは管理者が参加するようにしているが、東大阪市内の事業者と交流できる機会などは確保できていない。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを開始する時に利用者様自身が困っていること、不安に思っている事はその都度確認・傾聴し、職員間で情報を共有して、安心できる生活を送って頂ける様努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスを開始する時に家族様が困っている事・不安に思っている事・要望については確認・傾聴して、職員同士で情報を共有している。またご意見箱も設置し、良好な関係づくりに努めている。緊急の際は電話などにて対応し努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスを導入段階で、要望や必要とされているサービスについて検討し、利用者様個々に応じて、マッサージやリハビリ、訪問歯科、ドクター往診・受診などを利用され、他のサービス利用を含めた支援対応に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		<p>○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>利用者様のご意見・要望などを傾聴し不安・困っている事など全職員で検討・話し合い、解決策を実行する事で利用者様との信頼関係を築き、暮らしを共にする者同士の関係を築ける様に努めている。</p>		
19		<p>○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>家族様に相談事・心配事があればいつでも話して頂ける様な雰囲気・環境作りに努め、利用者様と家族様の絆を大切しながら、共に利用者様を支えていく事が出来る信頼関係を築く事が出来る様に務めている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>散歩などされた際などは施設近くに住まわれていた方と話しをされる利用者様もいるが、遠方から入所された利用者様は面会で来所される方以外は馴染みの人や場所との関係が途絶えてしまっており、関係が途切れないような支援は出来ていない。</p>	<p>公園や近隣の散歩、買物や神社の参拝などで友人、知人と出会う機会があり旧交を温める利用者もいます。お祭りや散歩で新たにつながりができ、挨拶を交わしたりすることもあります。入居前から利用していた病院等に家族と出かけている利用者もいます。行事等で友人・知人が来訪することはありますが、日常的には来訪者が少ない状況です。職員は、利用者が家族や旧友等への電話を希望する場合にはスムーズに話ができるよう支援をしています。また、利用者が手紙を書いた場合には、封をして投函する、家族に手渡すなど、利用者の希望に沿った支援をしています。入居時には、馴染みの家具等を持参するよう勧め、利用者が馴染めるような環境作りに努めています。</p>	
21		<p>○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>利用者様同士の関係性を把握し、トラブルやそれに準じる行為が起きないように、共同生活室における席の配置や職員の配置などに配慮しながら、一人ひとり孤立せず利用者様同士が話せ、支えあえる様な支援に努めている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用(契約)がなくなった方の情報をいつでも、状況に応じて開示出来るよう保管し、必要に応じて本人・家族様の経過をフォロー・相談や支援が出来るに様努めている。		
Ⅲ.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の何気ない会話や表情、言動から本人の思いや希望、些細な事にも気付ける様に努めている。意思の表出が困難な方は、家族に相談をしながら情報を得る様にしている。	職員は日常の会話や表情、しぐさから利用者の思いや願いをくみ取り、「私の姿と気持ちシート」に記録して職員間で共有し、支援に活かしています。職員は利用者が思いを言葉で表現できない場合でも、そぶりや表情から意向を察知して、きめ細やかな対応を心がけています。利用者の意向が察知できない場合には家族と相談をしながら利用者本位に支援を進めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居の際、馴染みのある家具等を持って来て頂いたり、本人や家族に生活状況をお聞きして、安心できる環境作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の“今”をよく観察し、心身の状態に応じたその人らしい生活が送れる様に努めている。また一人ひとりが個々のペースで生活できる様に支援している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の意向・思いを踏まえながら、現状のニーズに応じたケアを職員間で話合って介護計画を作成している。状況によっては医師や看護師のアドバイスも受けている。	介護計画書の作成時には家族の希望や意見を面談、電話、手紙、Eメール等で確認し、利用者の担当職員と話し合って原案を作成しています。作成した介護計画書案はサービス担当者会議で検討し、必要な場合には医師、看護師、家族等と相談しています。介護計画書は利用者家族に説明して了承サインをもらっています。家族が遠隔地の場合には電話等で説明した後、郵送して了承を得ています。介護計画書は実施記録を活かして毎月モニタリングを行い、3カ月毎に見直しをしています。状態が急変した場合にはその都度見直し、状況に沿った対応をしています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や状態の変化、気づき等を朝の申し送りやケース記録に残している。パソコンソフト上の申し送り機能を活用し、職員間の情報共有を図ると共に介護計画にも反映させている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>本人の希望に応じた対応(散歩)や、個々の状態に適した対応(食事形態・排泄用品等)を柔軟に行っている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人は心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>地域の夏祭りに参加したり、定期的なボランティアの来荘や地域の中学生との交流(演奏会)等、入居者の楽しみとなっている。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>入居時にかかりつけ医の確認を行っている。多くの入居者がホームの協力医を主治医としており、月2回の訪問診療体制や24時間の医療連携体制を確保している。往診結果は面会時に家族に報告を行い、職員間では“訪問診療記録”で情報を共有している。</p>	<p>入居面談時に利用者家族の希望を確認し、希望に沿った医療機関で適切な医療が受けられるように支援しています。多くの利用者は月2回のホーム協力医の訪問診療を受けています。ホームでは提携医療機関と連携して、看護師への24時間オンコール体制を整え、いつでも必要な医療が受けられるよう医療連携体制を整備しています。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>日常的に情報交換を行い、何か気付きや異変があれば、24時間連絡や相談・助言を受けられる。情報共有をする事で、早期発見と必要に応じては早期受診に繋がられる連携体制にある。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>入院時にはかかりつけ医より情報提供を行い、ホームからも日常生活についての情報を伝えている。また退院時は本人や家族の意向を聞きながら、早期退院に向けて安心できる生活環境に努めている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入居時に、重度化及び看取りについての指針とその時点での意向を確認している。状態の低下や重度化した場合には、かかりつけ医より見解を話して頂き、医療と介護の連携での支援を説明し、本人や家族の希望に添える様に努めている。意向を最優先にする為に、安心・安楽な環境作りや精神的ケアについての研修を実施する等、職員の資質向上を図っている。</p> <p>今年度は8月30日にターミナルケアについての勉強会を行いました。</p>	<p>入居面談時に重度化した場合の対応について説明し、希望があれば重度化した場合における(看取り)指針に沿って「看取り介護についての同意書」をもらっています。希望が無い場合には、あらかじめ終末期の対応について相談し、特別養護老人ホームへの入所申し込み等についても説明しています。重度化した場合の対応としてはその都度、利用者の状況を確認し、家族や医師と相談して利用者にも最適した療養の場を確保できるようにしています。職員にはターミナルケアについての研修を行い、安心・安楽な環境作りや精神的ケアについての力を育成するなど、資質の向上に努め、終末期支援に取り組んでいます。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>緊急時の対応マニュアルを作成し、全職員に周知している。また研修会の参加やホームの勉強会等を実施し、職員の知識向上に努めている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>消防署の立会いによる避難誘導訓練及び職員による消火設備や機器の説明など定期的に行うようになっている。飲料水や食料などの備蓄にも努めている。運営推進会議で地域の方への災害時の協力をお願いすることはあるが具体的な話には未だ至っていない。</p>	<p>消防署と連携し、隣接する同法人の特養と合同の災害時避難訓練を実施しています。平成29年は3月に1回実施し、秋に1回実施予定です。ホームの避難訓練については簡単な記録はありますが、写真や利用者の状況等、次回に活かせるような詳細な記録は作成していません。非常災害時の備蓄については飲料水や食料品、介護用品等の備蓄リストを絵入りで分かりやすく作成し、隣接する特養の1階相談室等に保管しています。</p>	
IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	<p>○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>利用者様の背景にある個性を理解し、一人ひとりの人格を尊重して、誇りやプライバシーを損ねないように注意している。特に言葉遣いについては、馴れ馴れしい言葉と親しみのある言葉を混同しないように、普段から職員同士で声を掛け合いながら注意をしている。</p>	<p>管理者は職員研修を行い、利用者一人ひとりの人格を尊重した言葉かけや対応を行うよう、日頃から職員へ注意喚起しています。特に言葉遣いについては、馴れ馴れしい対応にならないよう職員間で注意合っています。個人情報に記載した書類やデータ等は厳重に保管し、職員へ守秘義務や情報管理の徹底を周知しています。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で利用者様自身が思いや希望を表したり出来る様信頼関係を築き、職員間で情報を共有して、ケアの方法やレクリエーションなどについて自己決定できるよう自立支援に努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事・排泄・余暇・就寝・起床など総ての生活支援に関して利用者様一人ひとりの体調・状態を優先している。散歩などの外気浴なども取り入れ1日1日を安全・安心・快適に暮らして頂き、我が家の様な安らぎと、くつろぎのある生活を出来る様に支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時は、利用者様自身で髪を梳かれる方は自身で行い、介助が必要な方は鏡の前で職員により梳かせて頂く。着るものに関しては自立支援に基づき利用者様自身で選んで頂く。イベントの日には明るめの物を着て頂く様支援し、その人らしいおしゃれが出来るように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	<p>○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>ご当地メニューを取り入れたり、季節のイベントの際は特別メニューを取り入れている。食事は業者に委託しているため、一緒に作る事は少ないが、行事などで職員が食事を作る際は皮むきなど職員と一緒に利用者様にも手伝って頂く様に支援している。またメニュー掲示なども行っている。</p>	<p>隣接する特養の厨房で作られた食事が3食共に配膳車でホームに運ばれています。食事は旬の野菜等を取り入れて、見た目も味も美味しく工夫されています。熱いもの、冷たいもの、適温の食事が利用者の状況に合わせ、きざみ食やミキサー食も提供されています。ホームではおやつ作りやお好み焼き等、毎月利用者の希望に沿って献立を作り、調理を楽しむ機会を設けています。利用者は得意なことで力を発揮し、作る喜び、食べる喜びを共有しています。時には「職員の〇〇さんちのカレー」を作って味わい、楽しむ取り組みもしています。</p>	
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>日々の利用者様の健康状態に注意しながら、食事摂取量を把握し、水分量も時間を決めて1日を通じて確保出来る様支援している。また体調不良の方が出た場合に、いつでも水分強化が出来る様に、ポカリスエットの粉末を常備している。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		<p>○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>ご自身で出来る方はご自身で口腔ケアをして頂き、介助が必要な方は職員が全介助・一部介助させて頂く。また、個々に合った歯ブラシ・スポンジ・口腔ガーゼなどを使用する事で、口の中の汚れや臭いが生じないように、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアに毎食後努めている。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている</p>	<p>個々で排泄のパターンが異なるため介助が必要な方は排泄チェック表を作り、定期的に誘導させて頂いている。誘導の時間など変更・検討が必要な利用者様は月一回の定例会議などで相談・話し合いにて決定し、清潔で安心・安全な自立にむけた支援に努めている。</p>	<p>ホームでは利用者の排泄状況を把握し、排泄チェック表に記録して、一人ひとりの排泄パターンを共有しています。職員は利用者の状況に応じて声かけ、誘導、介助、見守り等を行い自立支援に取り組んでいます。毎月の定例会議で排泄支援について話し合い、利用者一人ひとりに合わせた誘導や介助方法等を検討し、利用者の安全と清潔に配慮しながら自立支援を進めています。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>食物繊維の多い食べ物や水分を日頃から多めに摂って頂いたり、リハビリも兼ねた、歩く・体操するなどの運動をして頂くことで個々に応じた予防に努めている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている</p>	<p>入浴の声掛けは行うものの、拒否される方に関しては無理やり入浴して頂くのではなく、時間をずらす、もしくは日にちをずらして入浴して頂いている。また、湯船に入れない方は足浴をしながからシャワーを浴びて頂くなどして、個々にそった支援を行っている。</p>	<p>ホームでは週2回の入浴支援を基本に、利用者の希望に沿って週3回の入浴支援もしています。利用者の身体状況を考慮して足浴やシャワー浴を行うこともあります。他の利用者の入浴を見て「私も入りたい」という希望があればその日に入浴できるよう、臨機応変に対応しています。入浴を好まない利用者には無理に勧めず、タイミングを見て声かけを行い、気持ち良く入浴してもらえるようにしています。</p>	
46		<p>○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>夏場は冷房や、タオルケットなどで、冬場は布団や暖房にてそれぞれ体温調節して頂く。また、利用者様が休息・就寝されたい時に自身の居室に戻られたりされる事で、休息したり安心して気持ちよく寝られる様な環境を提供し支援に努めている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		<p>○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>利用者様が処方されている薬の効能や効果、副作用について服薬リストを作成し、いつでも確認出来る様常備し、理解するように努めている。服薬の支援については出来るだけ見守りにて自身で服用して頂き、服用時には職員間で誤薬のないようにダブルチェックを行っている。症状の変化があれば24時間体制で往診先に連絡しドクターより指示を受ける事が出来る。</p>		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>利用者様のその日の体調などに合わせて、季節ごとのレクリエーション・散歩・塗り絵など定期的に行い一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援に努めている。また個々で写真を撮り掲示をしている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>利用者様のその日の体調や希望などを考慮しながら、散歩や日用品、嗜好品の買い物などの支援に努めている。またご家族様にも協力をお願いし、外食等も支援している。普段は行けない様な所については、本年度は、外出行事を設け計画している。</p>	<p>ホームでは利用者の日常的な外出支援に力を入れています。利用者一人ひとりの外出記録表を作成し、最近の7カ月間については散歩や買物等の外出回数、外出先等を記録して職員間で検討し、ステップアップの課題を明確にしています。夏季、冬季については気温の問題もあり、外出が困難な状況も見られますが、隣接する同法人特養を訪問して交流するなど、気分転換を兼ねた外出支援も検討しています。年間を通じては花見や紅葉見学など、各種行事を企画し外出支援に取り組んでいます。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>お金を支払うという基本的な行為の重要性について職員は理解しており、買い物などの外出の際には施設のお金を立替所持して頂くことができるように支援している。現状ではご利用者様ご自身でお金を管理、所持されているという事は行えていない。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		<p>○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>家族や大切な人にご利用者様自らが電話を希望されれば、電話をして頂くように援助している。また手紙などを書かれた際には、封書にて代わりにお送りしたり、ご家族様の面会時にお渡ししたりしている。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共有空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>共用の空間については整理整頓し、清潔感が保てるように清掃に努め、ご利用者様が快適に過ごすことができるようにしている。フロアや居室のテレビの音量などになどにも注意し、不快感を招かないように調整している。中庭からの採光を活かせるような家具や机の配置などにも配慮している。</p>	<p>玄関を入ると床はピカピカに磨かれ、洗面台、トイレ等も清潔感があふれています。廊下には絵画や活花を飾り、華やかな雰囲気が楽しめます。芝生が見える中庭に面した明るいリビングルームにはコスモス畑の貼り絵など季節感あふれる作品を飾っています。広いリビングには大きなテーブルを三セット、ソファを二脚、テレビ等を置いて、利用者が好きな場所で歓談したり、のんびりとくつろいだり、自由に過ごせるように工夫しています。廊下には手すりを付けて、利用者が歩行訓練にも取り組めるようにしています。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	独りになられる時は居室に戻られる方が多い。共用空間では気のあった者同士が過ごすことができやすいように、机を大きくしたり、机を囲んで話ができるように工夫し、支援に努めている。また職員がご利用者様の間に入るように努めている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはご家族様やご利用者様と相談しながら、使い慣れた物や大切にされていた物を持ち込んでいただくようにし、ご利用者様が快適かつ安全に過ごしていただけるような工夫に努めている。	居室には表札をつけて自室を分かりやすく工夫し、自立支援に活かしています。居室には作り付けのクローゼットがあり、利用者は自宅から使い慣れたベッド、寝具、整理ダンス、椅子などを持ち込み、住み心地よく整えています。仏壇、絵画、時計、テレビ、花瓶と花、家族の写真、書道作品、小物類などを飾って、その人らしい個性豊かな部屋になっています。職員は利用者と共に室内を整え、窓を開閉し、加湿器を活用するなど、空調にも配慮しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下の居室側には手すりがあり、歩行訓練もできるように設置している。また居室には表札をつけることで、自立した生活が送れることができるよう工夫している。浴槽には別途手すりを取り付けるなど安全性の確保に努めている。		